ISSN 1344-5561
京都府立大学図書館報
なからぎ
１５９号
２００２年４月

「本を座右に」…図書館活用のすすめ

附属図書館長　小　野　秀　生

新入生の皆さん、京都府立大学へようこそ。

実は私も、今春から図書館長に着任したばかりですが、府立大学に赴任してからは30年目の春を迎えました。30年前には、大学図書館は、木造二階建ての瀟洒なもので、南門の東側にありました。今の図書館ができたのは1974年です。この時の新設に合わせて、当時の予算で１億円近くの図書充実5カ年計画が実施され、私も図書委員として、図書リストの作成にかりだされたことを昨日のように思い出します。私の専門は、経済学、公共政策ですが、その当時、本学には、経済学や法学などの社会科学系の専任の先生が居られなかったせいであろうか、図書の充実の上では、大きな空白を痛感せざるをえませんでした。そんなこともあって、図書の選定に当たる、図書委員には比較的多く携わりましたが、学生の卒論やゼミ・レポートの作成では、むしろ公共関連資料や学術雑誌などが比較的に整った、隣の府立総合資料館の利用を奨めざるをえなかったことを思い出します。「知のコモン・ストック」としての図書館の充実のためには、今もこれからも、もっと財政をかけていただくことと、系統的な選書など大学として長期の取り組みが求められていることは確かです。

もう10年も前、バブルの絶頂の頃だったと思いますが、大学生協が、京都の「学生生活実態調査」を試みたことをもとに、学生の生活費の支出状況や、下宿生の保有する生活備品の状況から伺われる、「各大学の学生気質」として、新聞報道されたことがあります。他の大学のことは触れないで置きますが、府大生の生活費の支出から見た特徴は、他の費目や備品の保有は全般的に慎ましいが、書籍購入費と、本棚の書籍の保有は、第１位であることが、「府大生の気質」として特筆、強調されたことがありました。府大生は、他のことはともあれ、京都の学生の中で一番、「本を座右」にしている証として、教員の間で喝采しました。大学生協は、その後もそのような調査をしていると思いますが、今もその通りなのか、あの当時だけのことだったのかは、目下のところわかりません。日頃、接している感じでいえば、いまも変わらない「府大生の最良の気質」のように思えますし、それ以上に、「今も京都で一番、本を座右にしている府大生」と、私が思いたいからかも知れません。

下宿であれ、自宅であれ、そして大学図書館であれ、「本を座右に」ということは、若く可能性に満ちた学生生活にとってはもとより、広く人間にとって、生涯のあらゆる段階や環境において、教育・研究・人間形成にとっての手段的な意味でも、それらの目的的な意味でも、生活の全てとまではいわないまでも決定的に大事なことは改めていうまでもないと思います。

本学の図書館では、全学の蔵書を電算システム化する計画を推進しています。学内利用がはるかに便利になるだけでなく、学術情報センターにネットをつなげることによって、全国の大学の図書館との相互乗り入れが可能になるはずです。「知のコモン・ストック」としての図書館を活用し、学部・学科・講座から下宿・自宅をネットし、「本を座右に」の学生生活を心ゆくまで楽しんで下さい。

（おの　ひでお　福祉社会学部教授）

自分の顔に責任を持つ
～大学の顔、附属図書館について思うこと～

図書館運営委員　岡　村　眞紀子

他人の部屋を訪ねると本棚を見る癖がある。無論、本に興味があるからではあるが、そこにその人が見えてくる。だから、覗き見しているような罪の意識を持ちつつ見ているのも事実である。そしてまた、私を訪ねてきた人が私の本棚を眺めているのを目撃すると、裸でその人の前に立っているような恥ずかしさを感じて相手を直視できなくなりもする。

蔵書は人の顔である。顔は美しいに越したことはない。しかし、いつの頃からか顔はその内面を映し出し、単なる外的なものだけではない美醜を見せるようになる。だからこそ、美しい顔でありたいし、美しい顔に魅せられる。

大学図書館は大学の顔である。図書館に入ってみれば大学が判る。図書館が充実していて、計画的に基本資料が揃えられていると、それだけでその大学が信頼できる。ところで京都府立大学の顔、附属図書館はどういう顔を見せているのだろうか。図書館運営委員会委員としての３年間（なぜか２期務めているのだが)考えてきたのはこのことだった。そして、京都府立大学附属図書館にどういう顔をもたせたいのかを。そこで問題なのは次の４点である。

１．予算額
２．委員による選書のあり方
３．学生希望図書の購入のあり方
４．スペース

予算額については絶対額が少ないのはいうまでもないが、大学予算における割合の少なさも問題であろう。その割合は、大学における図書への価値観を示すものであるからである。

運営委員会委員は２年を任期に交代する。各学部各学科（あるいは各専攻）からそれぞれの分野を専門とする委員がでているので、大学図書館として必要な資料はまんべんなく選書される。学部により、委員によりそのやり方はまちまちであるように思われるが、少なくとも一定の方針を持ち委員の交代においては確実に引継をすることが不可欠であろう。それがなければ方針のない選書になって、何歳になっても大学はその顔に責任がもてなくなる。専門分野によって基本資料のあり方も違うので、それぞれの委員の母体でそれをきちんと議論しておくべきである。『西洋古典叢書』を入れ、『アウグスティヌス全集』、『グローブ音楽事典』を入れても、いまだに『プラトン全集』が本学の図書館にないというのはいかにも淋しいので、今年の選書では古本屋で探して入れたいと思っている。

学生の希望図書を受け入れ、研究を助けるシステムは本学図書館の利点である。大学は何より学生の勉学、研究を支えるところだからである。そこで、学生も大学の一員として大学図書館の存在理由と存在価値をきちんと認識しなければならない。昨今は、各自治体も文化に力を注ぎ始め、公立図書館が充実してきているが、これら公立図書館と大学図書館をその役割によってうまく使い分けしたいものである。少ない予算だからこそ、学生一人一人の研究を深め、進めるために力となるような書物を要求してほしい。書物は腐らない。未来永

劫京都府立大学の図書として残っていく。「あの人が学生のときに希望して購入した本」が残るということは、「あの人」がこの大学に在籍したことの足跡を残すことである。それは何とすばらしいことではないか。その人が在籍しなければその本は京都府立大学の蔵書に加わらなかったのだから。そんな意味を胸に、大学図書館に相応しい、またなくてはならない書物を、是非、学生の目から選んでいただきたいものである。

最後にスペースについては無い物ねだりかも知れないが、蔵書を充実していくためには不可欠なものである。ないスペースを最大限に生かし、かつ何とか新たなスペースをひねり出す努力を重ねているところだが、如何せん絶対的なスペースが足りない。参考図書の書架が限られているので、此処にあるべきものも書庫に入っていてレファレンスとして充分に活用されていない。退官教員の蔵書を引き取れない状況もスペースのなさゆえである。筆者の専門の英文学の分野では「臼田文庫」が今なお、私たちの研究を支えてくれると同時に、その書籍の揃え方にかつての研究者の書籍に対する姿勢が伺い知れて学ぶことが多い。もうぼろぼろで紐で縛ってある状態で現実に使用することはほとんどないのだが、OED(Oxford English Dictionary)の前身NED(New English Dictionary)(英語を読むのに欠かせない、現在20巻、補遺３巻のこの辞書が‘New’であった時代もあった！)を眼にすることができるだけでも嬉しい。学生たちにはそういうものを直接眼にする機会を与えたいものと思う。この「臼田文庫」も１階の東書庫に入っていて鍵を借りて入らねば入れない。もちろん鍵を借りれば入れるのだが、学生が書庫を歩き回って、かつてこの大学で教鞭をとり研究していた教員に出会う歓びを抱いてほしい。(書庫に入ることを許されたときの誇らしい、ようやく大学の一員となった気持ちは、筆者にとっても今なお忘れがたいものであるが、本学では１回生からそれが許されているという、とても幸運な環境が用意されている。それだけ学生を一人前の学ぶ者と見做しているのである。)細々としたスペースをかき集めるのではなく、大きいスペースに膨大な書物、資料が圧倒する空気を醸し出してそこにある、という図書館でありたい。さらに、附属図書館とまた役割を異にして学部図書室もなければならない。筆者も、学生のころ最も時間を過ごしたのは文学部文学科および哲学科の閲覧室であった。毎年増えていっているはずの貴重な書籍、資料も各教員の研究室に収めなければならない状況では、共用に供することができにくい。また、退職した教員の残した書籍も充分に活用できない状況になってしまうことも儘ある。書物は身の回りに整然とあっていつもその顔を眺めていてこそ私たちに語りかけ、手に取らせるものなのである。

スペースの点でもう一言。閲覧室の椅子数も少ないのだが、そこがいっぱいで、座れない学生がいるという状況は残念ながら眼にしたことはない。府立大学の学生たちは主にどこで勉強しているのだろう。かつてと違って自宅や下宿でも快適な研究空間が確保できるようになってきたからだろうか。しかし、必要な資料は図書館でなければ揃わないはずである。必要な資料が図書館に揃えば、学生たちはもっと図書館に集まってくるのだろうか。委員はもっと頑張らねばならない。

研究の仕方はその分野によって異なるが、大学の図書館のあるべき姿を図書館運営委員会でも、学部学科でも本腰を入れて議論して方針を出すことに、残る１年の任期、力を尽くしたい思っている。

（おかむら　まきこ　文学部教授）

図書館ホームページのご案内

図書館概要や利用案内、新刊図書など図書館の最新情報をお知らせしています。
そのなかで、文献複写依頼（ILL）の操作方法について説明します。
本学に所蔵していない資料について、他大学に文献複写依頼をすることができます。
まず、Webcat等で本学が所蔵していないことを確認し、「利用者ID」と「パスワード」を手元に用意してください。次に下記いづれかの手順で申し込んでください。

府大ホームページ（http://www.kpu.ac.jp/）①の画面から入る方法と（http://kpu-lib.kpu.ac.jp/cgi-bin/limedio/limewwwillcopy）にアクセスし、③の「認証」画面を直接表示する方法があります。

① 府大ホームページを開く

○トップページのメニューから
附属図書館をクリックします。⇓

② 図書館ホームページ画面を表示

○ 文献複写依頼
をクリックします。⇓

③ 「認証」画面を表示

○「利用者ＩＤ」と「パスワード」を入力し、認証をクリックします。⇓

＊「利用者ＩＤ］と「パスワード］については、事前に２階閲覧カウンターで申請手続きを済ませておいてください。

④ 「依頼文献検索」画面を表示 ⇒

●ここでは、雑誌の検索はできません。

○雑誌の複写依頼をされる場合は
手入力依頼画面
をクリックしてください。

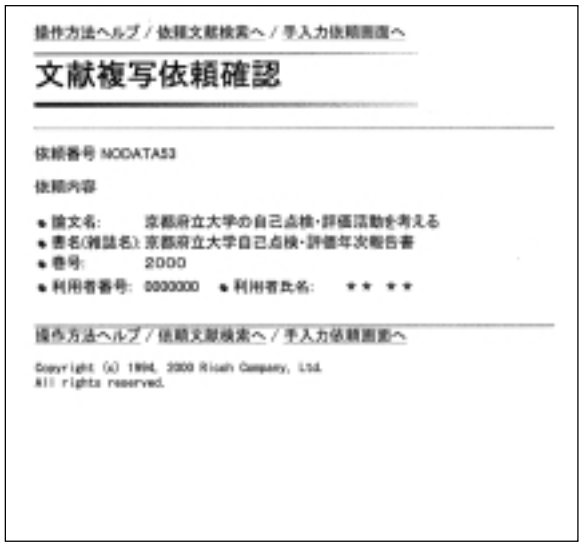
⑤ 「文献複写依頼」画面を表示 ⇒

●情報はできるだけ多く、詳しく
記入してください。

●論文「掲載誌名」は「書名」の
欄に記入してください。

●「支払区分」は
「公費」か「私費」かを、
また、「予算区分」は
「その他」（私費の場合）か
「研究費」（公費の場合）かの
いずれかを必ず選択します。

○必要事項を入力し、依頼ボタン
をクリックしてください。



⑥ 「文献複写依頼確認」画面を表示

⇐ ○記載事項に誤りがないか確認
します。

⑦ 記載事項に間違いがなければ
＜終了＞です。

＊引き続き依頼の手続きをする場合
文献複写依頼確認」画面右下の
手入力依頼画面へ をクリックし、

⑤ 「文献複写依頼」画面を表示
以下を繰り返してください。

次に本学図書館所蔵図書検索（OPAC）について説明します。

府大ホームページ（http://www.kpu.ac.jp/）から入る方法と、http://kpu-lib.kpu.ac.jp/cgi-bin/limedio/limewwwopac をアクセスして、③の「検索」画面を直接表示する方法があります。

① 文献複写依頼と同様、京都府立大学トップページのメニューから 附属図書館 をクリックします。
② 附属図書館の画面から 本学図書館蔵書検索 をクリックします。
③ 検索の画面で「検索条件」に書名又はキーワードを入力し、 検索 をクリックします。⇓

④ 「検索結果一覧」の画面で 目的の書名をクリックします。⇓

⑤ 「図書目録情報」画面で詳細や所在、請求記号等を確認してください。⇒

＊OPACで検索できないものについては、次ページの**〈カード目録を引いてみよう〉**を参照してください。

カード目録を引いてみよう

閲覧室の南側窓際に木製のカードケースがたくさん並んでいます。東側から順に著者名目録・書名目録・分類目録と３つの目録に分かれていて、著者と書名はそれぞれのワードから検索することができます。

この図書館の配列は、アルファベット順で語順配列になっています。そこで書名目録を引いてみましょう。例えば、図書館の歴史（図書館/の/歴史）図書館学（図書館学）図書館学通論（図書館学/通論）図書館史（図書館史）図書館史研究（図書館史/研究）という具合に並んでいます。（　）内が単語による切り分けをあらわしています。

つまり単語を単位とした配列になっているわけです。このほかに字順配列というのがあって、これは文字の切り分けをせずに並べたものです。この場合は、順序は次のようになります。

図書館学
図書館学通論
図書館の歴史
図書館史
図書館史研究

違いがおわかりでしょうか。

それでは、カードの上部にタイプされているヘボン式ローマ字による表記に気をつけて、目録カードを引いてみましょう。

個人や団体など著者の場合（著者名目録）は、日本人名はヘボン式ローマ字綴り、欧米人は原綴で姓名の順に配列されています。個人著者名で同音異字の場合は漢字の画数の少ない方が先になります。

同一人物の著作の配列は、洋書と和書では洋書が先で、全集、選集、個々の著作、訳者としての著作の順に並び、それぞれのグループの中は書名のアルファベット順になり、同一著作は、出版年の逆年代順（新しい方が手前）になります。

複本（同じ本）の場合の配列順は、図書館所蔵本が先で、そのあとに学部・学科所蔵本の順（学生便覧にのっている学部・学科順）に並んでいます。

一番西側にある分類目録は、日本十進分類法（NDC）に基づく分類順に０門（総記）から９門（文学）まで順に並んでいます。例えば、774（ナナ、ナナ、ヨンと読む）は歌舞伎の分類で、ここには約100枚のカードが組み込まれています。１枚のカードに必ずしも１冊というふうには対応していないので、100冊というふうにはすぐにはいかないのですが、ほぼこれくらいの歌舞伎関係の書籍が府大の蔵書というわけです。カードの右肩に＜図書館＞とか＜国際文化＞とかゴム印が押されていてこれがその図書の所属を表しています。

ですから、図書館の閲覧室の書架に並んんでいるものの他に、書庫にあるもの（これはカウンター内のシェルフ・カードを見ないと区別できないので、書架にない場合はカウンターまで申し出て下さい）と各講座にあるものとが、これでわかるわけです。また、周辺の分類も検索してみることをお薦めします。探している分野の図書はまず書架を見て、次にそれと同じ分類の目録を繰ってみることで、思いもかけない本に出会う可能性があります。

図書館からのお知らせ

新規登録図書については平成12年10月からCATによる目録システムで整理を行っており、現在（平成14年３月末）のところ図書館及び講座合わせて約14,000冊が入力されている。

また、遡及入力については、平成13年度に図書館閲覧室に排架されている図書のうち参考図書・二次資料及び洋図書を除く約25,000冊（委託入力及び自館入力含む）を入力した。遡及入力については、平成14年度も引き続き行う予定である。

これで、約40,000冊近くがOPAC（Online Publik Accesse Catalog）で検索可能であるが、まだまだ全体からすると少ない。利用者には不便をおかけしますが、本学所蔵図書の検索については、OPACと従来からのカード目録を利用して下さい。利用方法は６～７ページを参照。

また、平成14年度から図書の貸出・返却を閲覧管理システムにより行うことになったので、本を借りる時は、＜利用者カード＞と本をカウンターに出して手続きして下さい。

行　事　予　定

４月

○１日(月)
　在校生の登録更新開始
○１日(月)～11日(木)　春期休業
　（開館時間：午前9時～午後4時45分）
○12日(金) 通常開館開始
　（開館時間：午前９時～午後８時）
○15日(月) 春休み長期貸出図書返却日
○29日(月) 休　館（みどりの日）

５月

○３日(月) 休　館（憲法記念日）
○６日(月) 休　館（振 替 休 日）

今年度からは、登録されていなければ、貸出だけでなく、文献複写、一時持出し、他校への閲覧依頼等、図書館サービスを受けていただけなくなることがありますのでご注意ください。

図書館登録のお願い

新入生のみなさん

ご入学おめでとうございます。

図書館を利用していただくにあたっては、「図書館登録」が必要です。

新規登録手続き等の説明は、図書館２階閲覧室カウンターで行います。

在校生のみなさん

昨年度の利用券は無効になりますので登録の更新をお願いします。なお、それまでに、貸出中の図書は必ず返却のうえ、改めて借用の手続きをしてください。

なからぎ京都府立大学図書館報　159号 2002（平成14）年４月発行　編集発行人：小野秀生
発行所：京都府立大学附属図書館　〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町　TEL 075（703）5129
FAX 075（703）5192　ホームページアドレスhttp://www.kpu.ac.jp/toshokan/toshokan.html